



目 次

- ◆ [理学部でオープンキャンパスを実施](#)
- ◆ [国内最大の産学マッチングの場
「イノベーションジャパン2009」に出展](#)
- ◆ 海外からの来訪者
○[韓国国立大学理学部長一行・理学研究院訪問](#)
- ◆ 国際会議・シンポジウム等の開催
【数学部門】
○[The 2nd MSJ-SI "Arrangements of Hyperplanes"](#)
○[第56回トポロジーシンポジウム](#)
○[第34回偏微分方程式論札幌シンポジウム](#)
○[ポテンシャル論国際研究集会2009
International Workshop on Potential Theory 2009](#)
【化学部門】
○[Chine-Japan Joint Symposium on Functional Supramolecular Architecture](#)
- ◆ [外国人研究者等受入状況
\(2009.7.2～2009.10.1\)](#)
- ◆ [海外からの来訪者\(短期滞在\)
\(2009.7.2～2009.10.1\)](#)
- ◆ [学位授与
平成21年9月25日付け学位授与者](#)
- ◆ [人事異動〈正規職員・非正規職員〉
\(平成21年7月2日～平成21年10月1日\)](#)
- ◆ [行事予定\(平成21年10月～平成22年4月初旬\)](#)

理学部でオープンキャンパスを実施

○ 自由参加プログラム

8月2日（日）、3日（月）の両日北海道大学オープンキャンパスが行われ、理学部においてもこの2日間に、高校生や保護者、一般市民の皆さんに北大を知っていただくための「自由参加プログラム」が実施されました。

5号館低層棟2階の大講堂に道内外216校から1,007人（道内730人、道外277人）が参加しました。

山口学部長の歓迎の挨拶に続いて、各学科長・各学科所属の教員等から学科・分野の教育内容等について紹介が行われ、高校生たちは真剣な眼差しで聞き入っていました。

大学院生による研究発表、数学科教員による公開講座及び学生による模擬実験を行い、また、学生による相談コーナーを設けました。



（山口学部長の挨拶）



（在学生による相談風景）

○ 高校生限定プログラム(体験入学)

8月3日（月）に理学部において高校生限定プログラム（体験入学）が行われました。この「高校生限定プログラム」は、高校生に、自然科学への関心を引き起こすとともに、理学部で行われている教育・研究の実際を理解してもらうため、「体験入学」として始められ、今年で18回目になります。

1学科2学科目が「高校生限定プログラム」に取り組み、計12コースが実施されました。

今年の「高校生限定プログラム」には、道内からの18校を含め38校から合計64名もの高校生が参加しました。

「高校生限定プログラム」終了後、各コースにおいて修了証書授与式が行われました。

「高校生限定プログラム」に参加した高校生からは、多くの感想が寄せられました。以下に高校生から寄せられた感想のうち、各コースに関係する一部を紹介いたします。

《感想文の抜粋》

1) 動物の作り方となおし方：発生と再生を学ぶ

- ・ミジンコ採取やエビ部屋の見学など研究室に実際に入ることが出来て、とても楽しかった。高校では見たことも触れたこともないような生物や実験機器を観察や使用でき、上手に使うことができるか心配だったが、院生の人が優しくレクチャーしてくれて、何とかミジンコを観察することが出来た。なんと言っても普段の高校生活では出会うことのない様なものに触れることが出来たことが、うれしかった。
- ・「北大キャラバン」で北大での研究について話を聞いたことがあります。ただ話を聞かせてもらうだけでなく、実際に色々な器具を使ったり、研究している環境を見学できたことで、以前にも増して大学での研究に興味を持ちました。申込みを農学部か理学部かと迷いましたが、少人数だった理学部を選んで良かったです。
研究のことだけでなく、昼休みに、院生の方々に北大に来た理由や北大での生活についても伺えたので、色々と大学自体について考えることが出来ました。また、オープンキャンパスで大学を見ることが出来て良かったです。

2) カエルとメダカの人工授精：一個の卵から複雑な体が作られる不思議な体験をしよう

- ・思ったよりも施設が多くて、実験装置が充実していて勉強になりました。高校で習うことをさらに深く追究していて専門的だったので、自分も今回体験してより勉強してみたいと思いました。カエルやメダカに触れ、卵や精子を取り出す作業は不安だったが、先輩方に助けていただいたので顕微鏡で観察することが出来ました。大学は高校の雰囲気と全くかけ離れていて、自分で学びたいことに集中できそうなので、受験に向けて頑張ります。
- ・受講前は緊張しましたが、教授の丁寧なご指導ややさしい先輩方のおかげで、楽しくプログラムを終えることができ、感謝の気持ちで一杯です。人工授精の実験は初めてでしたが、先輩方のレクチャーがとても分かりやすかったので、スムーズに行うことができました。ただし、事前にメダカの腹を割く等ちょっぴりグロテスクな過程があることを、もう少しストレートに説明していただきたかったです（出来ればWebでの内容紹介の段階で。）。また、機材トラブルで見学できるものが減ったのは残念でした。双眼実体顕微鏡など初めて使う器具も多かったのもので、これからの学校生活にとっても役立つプログラムだったと思います。

3) 中枢ニューロンの形態と活動の実時間で見てみよう！

- ・初めは虫が嫌いなので、すごく不安だったけど、このプログラムに参加出来て良かったです。普段はやれないことができて、良い経験になりました。実験道具は高価なものが揃っていたし、動物もたくさんいてすごかったです。コオロギの解剖は気持ちが悪かったけど、最後は慣れて楽しんでできました。細胞体などが光って見えて感動しました。大変だったけど、見ることでよかったです。
- ・今回のプログラムに参加させていただき、とても有意義な時間を過ごせたと思います。特に、ただ実験等を見学するのではなく、実際に実験をし、それについての考察なども聞かせ

てもらおうという形が、大学の雰囲気味わうのにとっても有効であると思いました。しかし、今回の実験内容が少々「運」の要素が強く、時間がかかるものであったことが残念です。実験の内容を即効性のあるものにしてみたらよいのではないのでしょうか。

4) 生物学からみた動物コミュニケーション：小鳥のさえずりからヒトの言語を考える

- 小鳥と人間は分類だと遠いそうなのに言語（音）だと近いのが意外でした。
化学と生物どちらに進もうかはまだはっきり決まっていなかったので、自分の目標にできるような研究テーマをきちんと見つけたいと思いました。
- 初めての大学の中の研究室、実験室、施設などが見られて、楽しかった。もともと大学の研究には興味があったが、本当に見られる機会はかなり稀少だと思うので、とても貴重な体験ができたと思う。小鳥の鳴き声の研究というのは、あまり聞いたことがないので、興味があったが、少人数で説明を受けられて良かった。
北大は首都圏の大学と比べて広くて施設が充実していることがわかって、改めて魅力を感じました。

5) わたしたちの身近で役に立つ微生物を調べてみよう

- 私は中学生の時から原生動物に興味があり、学校のサークル活動でそれについて調べたことがありましたが、今回のような比較実験で微生物の能力を学ぶということもおもしろいと思いました。測定方法に光を使用し、吸光度によって標準曲線を書くことで様々なことが分かるのに興味を持ちました。また、「根圏浄化技術」というその微生物の特徴を使って回収し、微生物を蛍光塗料で判別するという実験を初めて知ることができ、大学での研究が楽しみになりました。
- 微生物という今までミジンコやミドリムシといった動物(?)のイメージしかなかったので、今回、納豆菌や分解菌といった“菌”もたくさん存在し、私達の生活と密接に関わっていると知り、とてもおどろいた。特に分解菌は有害であるアゾ染料をたった一週間でさっぱり分解してしまい、生命活動の不思議をよく強く実感した。また、高校には無い（あっても多分使わせてくれない）高級な機械に触れることができてとても幸せだった。見たこともないような道具を体験することは全く無いので、とても貴重で思いで深いものになった。できれば分解菌のお顔(?)を見たかったのですが、それは北海道大学で学びたい!という強いモチベーションにつなげて勉強を精一杯頑張ろうと思う。

6) ヒグマの自然史を考える

- ヒグマとエゾシカとヒトとトドの骨の頭がい骨を見せて頂き、形状から分かる各動物の特徴を分かり易く教えて頂きました。ますますヒグマへの関心が高まりました。何時間居ても飽きない素晴らしい資料が沢山あり良かったです。学生の方々が研究なさっている部屋を垣間見ることができて、いろいろ努力して研究していると思いました。また、学生生活について分かり易く素直な意見を聞けたので良かったです。
- 自然史がどういうものか分かり、とても面白かった。北海道大学には色々いいところがあり、構内に原生林があったりしてびっくりしました。その中にいる北大生達がのびのびと勉強していて、いいなと思いました。クマやシカの歯の形やフンについてなど知らなかったこ

とがたくさんありました。また、学生や大学院生から話が聞けてよかったと思います。北大はいいところですね。帰るのが名残惜しいです。

7) G F P (緑色蛍光タンパク質) を使ったバイオテクノロジーを体験しよう

- G F P に関して最近ノーベル賞をとった方がおり、話題になったためこれの存在を知って興味を持ちこの講座を受けた。はじめの説明で聞いたことのないアルファベットやカタカナにとまどいました。説明も少々難しかったですが、パワーポイントで図を示しながら説明を受けたので、DNAをRNAにコピーして、それを用いてDNAを増殖させるというようなことは分かったのかなと自覚しております。

今回特に印象に残ったことは、光る細胞を蛍光顕微鏡を使い見たことです。暗い部屋の中でたくさん緑色に光る細胞はまるで星のようで、G F Pを持った細胞が光ることを実感しました。また、初めてマイクロピペットや遠心機などの実験道具を使用しました。遺伝子を増殖させたり、ゲルを使ったり、目ではあまり実感できないことを道具を使って見ることは、とても面白かったです。優しいT Aの方々と先生の分かり易い説明とともに楽しく実習させていただきました。

- 今回の「G F P」についての実験は、私の知らないことだらけで、初め少しとまどいがありましたが、先生や学生さんに手伝ってもらいなんとかやりきることができました。実験の最中、次から次にいろんな薬品や機械が出てきたので、すごいテンションが上がってしまい、多分一人だけがまい上がっていたと思います。実験の結果は、うまく表れなくてとても残念でしたが、こんなにも「G F P」というものがすばらしいものだといえることができて本当に良かったです。

8) 頭はどうやってできる？—動物の形作りに働く遺伝子の機能を調べる—

- 堅苦しいと思った講義も内容は難しかったけど、教え方が分かり易かったです。実験では、針を刺すときハラハラでした。双頭胚の右上の子がかわいそうでした。充実したオープンキャンパスでした。
- 講義も面白かったし、実験が多くて、自分達も実験に参加できたので良かったと思った。足につめがあるというのが面白かった。具体的にどのようなことをやるのかよく分かって良かった。理学部の先輩方からもいろいろと勉強の仕方教えてもらえて良かったです。今までのオープンキャンパスとは違って面白かった。

9) ゲル —生物に最も近い人工物—

- 色々なゲルをさわったり、豆腐を作ったりするのも楽しかったですが、学生や先生の方々のお話を聞くことができて嬉しかったです。パンフレットにないような大学生活の話や就職の話などを参加にして、後悔しないような進路を決め、入学後にも一層がんばっていきたいと思いました。
- ゲルとはどういうものか分からなかったが、今日体験しているいろいろ分かり楽しかった。高分子機能学にはあまり興味がなかったが、今回の体験を通して少し興味をもつようになりました。大学キャンパス内も紹介していただいて、北大のことが今までより知ることができて良かったです。生の大学生と話ができてとても良い経験になりました。

10) 細胞内のタンパク質を光らせてみよう

- 研究室の様子がわかり、とても良い経験になりました。実験では、高校で使用するののない実験器具を使って実験したのはとても新鮮で楽しかったです。昼休みに大学生の方から北大について色々なことが聞けて、とてもためになりました。高校生限定プログラムに参加できて本当に良かったです。
- 題名からタンパク質をどのように光らせるのかと思い、はだを太陽にあてたとき虹色に光ってみえるので、そのような感じで光らせるのかなと思っていました。実験で赤と黄緑の蛍光色に光っているのを見られて、細胞はほとんどタンパク質だなと思いました。

11) 生体分子の構造変化を追跡しよう・生体分子（糖、アミノ酸など）の化学修飾とそれに伴う構造変化、物性変化を分析する

- 大学の研究室で実験を行い、最先端の機械や研究内容を見学することができ、化学への興味を強くしました。高校で習った有機化合物などは、今まで実際に見たことはなかったので、今回実際に見ることができて面白かったです。最先端の研究でも高校で習う化学が基礎であることが分かり、高校の勉強は大事だと思いました。
- 難しいことだらけだったが、なかなか出来ないことを体験できた。もう少し準備をしていれば、ゆっくり実験ができたと思います。実験に関する資料が欲しかった。

12) DNA鑑定をしてみよう：法医学者として、犯行現場から採取されたDNAサンプルと5人容疑者から得たDNAサンプルを比較することにより、犯人を識別する

- 初めて見た実験道具ばかりだったし、全く知らない事が多かったけれども、DNAについて少し理解することが出来ました。これからは、今日習ったことが少しずつ授業で学ぶことになると思いますので、その時には今日の内容と合わせて深く考えたいと思います。
- とても貴重な体験ができて良かったというのが一番の印象です。最近、事件でDNAの問題が浮上していたのに興味をもちました。DNAはとても繊細なものだと思いました。



(高校生限定プログラムでの実験風景)

国内最大の産学マッチングの場 「イノベーションジャパン2009」に出展

国内最大規模の産学マッチングイベントである「イノベーションジャパン2009」が9月16日（水）から9月18日（金）まで、東京国際フォーラムで開催されました。

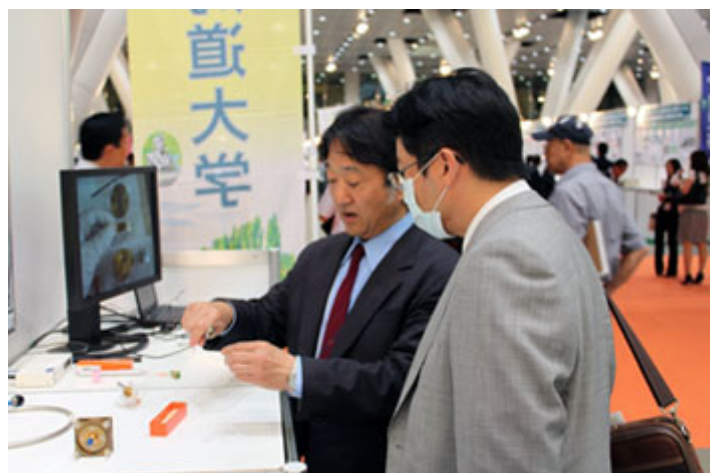
本イベントは、展示会・フォーラム・新技術説明会の3部から構成されており、中心となる展示会においては、大学の先端技術を8分野に構成し、「大学・TLOゾーン」を中心とする300を超える大学発先端技術シーズが公開されました。

本学からは、実施委員会から選定された8拠点及び「北海道大学産学連携本部・TLO」が参加し、大学院理学研究院からは、物理学部門電子物性物理学分野の野寄准教授が参加しました。

会期中、多くの企業関係者・研究者の方々が本ブースを訪れ、野寄准教授による説明を熱心に聞かれていたほか、研究成果利用方法及び実用化に向けての共同研究などについて話し合いの場が持たれました。

出展者；野寄准教授のコメント

研究を進めるにあたって開発した各種実験装置・測定器具の中には広く異分野あるいは各種産業界で有効利用できるものが少なくありません。しかし、理学研究院で基礎科学研究に携わる我々にとって産業界は遠い存在です。イノベーションジャパンへの出展は、自分たちと産業界の架け橋を作ってくれます。理学研究院で開発された技術シーズの存在を企業等に知ってもらうだけでなく、企業が導入する際に解決されなければならない課題も明らかになります。今回で5回目の出展になりますが、技術シーズの製品化パートナーを模索する段階から始まって、ようやく製品提供を前提とした新技術導入に伴うメリットを展示することができるようになりました。このような取り組みは、大学の社会貢献の一面として重要性を増すものと思います。



（対応する野寄 龍介 准教授）

海外からの来訪者

○ 韓国国立大学理学部長一行・理学研究院訪問

平成21年7月28日、韓国国立大学理学部長一行8名が本研究院を訪れ、山口研究院長と意見交換を行った。

韓国側からは、各大学理学部の紹介及び山口研究院長からの本研究院の紹介等で予定時間を越えて熱のこもった意見交換が行われた。



(さらなる交流促進を祈念して)



(韓国大学理学部長一行との記念撮影)

国際会議・シンポジウムの開催

【数学部門】

○ The 2nd MSJ-SI "Arrangements of Hyperplanes" (第2回日本数学会季期研究所「超平面配置」)

会議等名： The 2nd MSJ-SI "Arrangements of Hyperplanes"
(第2回日本数学会季期研究所「超平面配置」)

主催団体名： 数学

開催期間： 平成21年8月1日～平成21年8月13日

開催地(会場)： 北海道大学学術交流会館

出席人数： 179名

部門等での世話人： 阿部拓郎（京都大学），寺尾宏明（北海道大学・組織委員長），
吉永正彦（京都大学），Sergey Yuzvinsky（オレゴン大学）

標記の国際研究集会が2009年8月1日から13日に北海道大学学術交流会館で行われました。

この会議の目的は、超平面配置という自然で単純な対象が、様々な分野の数学にどのように登場し、どのようなinteractionsを起こしているかを検討するとともに、超平面配置の理論自体がどこまで発展しているかの現状を分析することでした。

この趣旨を生かし、この分野に関心はあるが、知識が十分でない非専門家向けに、前半では、8つの入門的な講演が行われました。後半には25の1時間招待講演と、申込制による9つのshort communicationsがありました。最新の研究成果から問題の提示まで、様々な講演がありました。講演内容・関連分野は、多岐にわたっていましたが、すべてが、超平面配置と何らかの形で関連するものでした。

参加者は、179名で、内訳は、
国内：117名（うち学部生・大学院生：16名）
海外：62名（うち学部生・大学院生：15名）でした。

詳細は、下記サイトをご覧ください。

<http://mathsoc.jp/meeting/msjsi09/>



○ 第56回トポロジーシンポジウム第56回トポロジーシンポジウム

会議等名： 第56回トポロジーシンポジウム
主催団体名： 数学
開催期間： 平成21年8月8日～平成21年8月11日
開催地(会場)： 北海道大学クラーク会館講堂
出席人数： 209名
部門等での世話人： 秋田利之（北海道大学）， 泉屋周一（北海道大学）， 栗林勝彦（信州大学），
中西康剛（神戸大学）

第56回トポロジーシンポジウムが、2009年8月8日から8月11日にかけて、北海道大学クラーク会館講堂にて開催されました。この集会はトポロジー(位相幾何学)に関する研究集会としては国内で最大のもので、場所を変えて毎年夏に開催されます。北大では1999年に続き5回目の開催となります。日本人・外国人研究者による合計15の研究発表(1時間講演)が行われ、参加者も209人と盛況でした。来年度は岡山大学で開催される予定です。

○ 第34回偏微分方程式論札幌シンポジウム

会議等名： 第34回偏微分方程式論札幌シンポジウム
主催団体名： 数学
開催期間： 平成21年8月24日～平成21年8月26日
開催地(会場)： 北海道大学理学部5号館大講堂（203室）
出席人数： 86名
部門等での世話人： 小澤徹（早稲田大学）， 儀我美一（東京大学）， 坂上貴之（北海道大学），
神保秀一（北海道大学）， 高岡秀夫（北海道大学）， 利根川吉廣（北海道大学），
津田谷公利（北海道大学）， 中村玄（北海道大学）

第34回偏微分方程式論札幌シンポジウムが8月24日（月）～26日（水）の3日間にわたり、北海道大学理学部5号館大講義室において開催されました。国内外から86名の研究者が集まり、60分講演が7つ、30分講演が6つ、合計13の研究発表が行われました。国内の数学の研究集会として歴史は古く、大きな規模のもので、偏微分方程式をテーマとして、近年の研究動向も含めた最新の研究結果の報告が行われています。講演発表後の交流会では、講演者との活発な討論が行われました。

研究集会期間中は天気も良く、北大キャンパスはさわやかな初



秋の季節でした。熱心な議論と活発な情報交換ができて大変有意義な研究集会でした。

○ ポテンシャル論国際研究集会2009 International Workshop on Potential Theory 2009

会議等名： ポテンシャル論国際研究集会2009
 International Workshop on Potential Theory 2009

主催団体名： 数学

開催期間： 平成21年9月1日～平成21年9月4日

開催地(会場)： 北海道大学理学部3号館3-205教室

出席人数： 32名

部門等での世話人： 相川弘明（北海道大学）， 水田義弘（広島大学）， 鈴木紀明（名城大学），
 下村 哲（広島大学）

ポテンシャル論国際研究集会2009 (IWPT2009)が2009年9月1日(火)～4日（金）にかけて、北海道大学理学3号館205教室にて開催されました。

この研究集会はポテンシャル論に関する国内外の研究者が集まり、最近の話題を話しあう機会を提供するものです。IWPTは今回で3回目となりますが、直後に開催される第21回Rolf Nevanlinna Colloquium（京都）のサテライトとしても位置づけられ、海外から5名の研究者を含む、合わせて32名の参加者により21の講演が行われました。

【化学部門】

○ China-Japan Joint Symposium on Functional Supramolecular Architecture

主催団体名： China-Japan Joint Symposium on Functional Supramolecular
 Architecture

開催期間： 日本学術振興会

開催地(会 平成21年8月2日～平成21年8月5日

場)：

出席者数： 札幌市（アパホテル&リゾート札幌）

世話人： 47名

議長： 河合英敏（化学部門助教）

外国人研究者受入状況

期間：2009年7月2日～2009年10月1日

【受入部門名：自然史科学部門】

年 月 日 (期 間)	来 訪 者 (国名・所属・職名・氏名)	目 的 【 経 費 等・受入教員 】
2009.09.27 -2009.10.10	アメリカ合衆国：ウェスレヤン大学 助教授 James Greenwood	共同研究 【科学研究費補助金・坂本 尚義】

【受入部門名：生命理学部門】

年 月 日 (期 間)	来 訪 者 (国名・所属・職名・氏名)	目 的 【 経 費 等・受入教員 】
2009.06.15 -2009.07.12	ハンガリー：センメルヴァイス大学医学 部 研究助手 Gergely Zachar	学振・二国間共同研究「ヒヨコ線条体にお ける シグナル伝達と記憶形状」の実施 【日本学術振興会事業・松島 俊也】

海外からの来訪者(短期滞在)

期間：2009年7月2日～2009年10月1日

【受入部門名：化学】

年 月 日 (期 間)	来 訪 者 (国名・所属・職名・氏名)	目 的 (受入教員)
2009.07.22 -2009.07.25	アメリカ合衆国：サウスキャロライナ大学 准教授 Caryn Outten	研究指導及び助言 (石森 浩一郎)
2009.07.23 -2009.07.25	アメリカ合衆国：オークランド小児病院研究センタ, カリフォルニア大学バークレー校 教授 Elizabeth C.Theil	講演会 (石森 浩一郎)
2009.08.24 -2009.08.27	インド：インド科学振興研究所 教授 Brindaban C Ranu	講演会及び情報交換 (澤村 正也)

学位授与

平成21年9月25日付け学位授与者

【課程博士】（理学院2名）

額邨 健人（化学専攻）

Biosynthetic Studies on the Antitumor Antibiotics Involving Nonribosomal Peptide Synthetases
（抗腫瘍性抗生物質の生合成における非リボソーム依存性ペプチド合成酵素の機能解析）

主査 教授 及川 英秋

野村 尚生（化学専攻）

Study on Stability of Tetrameric Structure of Tumor Suppressor Protein p53
（癌抑制タンパク質p53の四量体構造の安定性に関する研究）

主査 教授 坂口 和靖

人事異動

対象期間：平成21年7月2日～平成21年10月1日

<正規職員>

(採用)

平成21年8月1日付け発令

自然史科学部門宇宙惑星科学分野 教授 高 橋 幸 弘

(東北大学大学院理学研究科 准教授から)

化学部門 講師 保 田 諭

(産業技術総合研究所 任期付職員から)

平成21年10月1日付け発令

地震火山研究観測センター 准教授 宮

村 淳 一

(気象庁地震火山部火山課火山監視・情報センター火山機動観測班長から)

(昇任)

平成21年10月1日付け発令

数学部門 教授 坂 上 貴 之

(同部門 准教授から)

(転入)

平成21年10月1日付け発令

係長(博物館担当) 高 橋 宏 市

(医学系事務部会計課係長(財産管理・施設担当)から)

(転出)

平成21年9月30日付け発令

生命理学部門生命機能科学分野 助教 綿 引 雅 昭

(先端生命科学研究院 准教授へ)

平成21年10月1日付け発令

係長(博物館担当) 江 島 正 博

(医学系事務部総務課係長(保健科学研究院担当)へ)

<非常勤職員>

(採用、配置換)

H21. 7. 6 物理学部門	技術補助員	立石 謙太
H21. 8. 1 化学部門	博士研究員	山崎 祥平
H21. 8. 1 自然史科学部門	技術補助員	内山 ゆきえ
H21. 8. 1 生命理学部門	事務補助員	川村 いぶき

H21. 9. 1	物理学部門	技術補佐員	村上	英樹
H21. 9. 1	自然史科学部門	技術補助員	大坂	千代美
H21.10. 1	地震火山研究観測センター	博士研究員	奥山	哲
H21.10. 1	自然史科学部門	技術補助員	橋口	未奈子

行事予定

〈平成21年10月～平成22年4月初旬〉

月	日	曜	事 項
10	1	木	第2学期授業開始
	2	金	学位申請（10月付託）締切
	8	木	大学院履修届受付【～14日（水）】
	9	金	秋季特別入試出願期間【～15日（木）】
	13	火	学部生（平成17年度以前入学者）履修届受付【～14日（水）】 学部生（平成18年度以降入学者）履修届Web入力【～19日（月）】
	13	火	AO入試出願受付期間【～20日（火）17：00必着】
11	10	火	AO入試第1次選考結果通知
	13	金	12月学位授与予定者の審査報告関係書類提出締切
	18	水	秋季特別入試選抜試験【～20日（金）中の1日】
	20	金	博士学位申請（12月付託）締切
	22	日	AO入試第2次選考日
12	8	火	AO入試第2次選考結果通知
	11	金	AO入試合格者入学手続き【～17日（木）17：00必着】
	15	火	大学院理学院第二次入試出願資格予備審査申請期間【～21日（月）】
	25	金	博士学位申請（1月付託）締切
	28	月	全学教育部・理学部・理学院冬季休業【～1月3日（日）】
1	4	月	全学教育・理学部・大学院理学院授業再開
	7	木	大学院理学院第二次入試出願資格予備審査結果通知【16：30頃】
	8	金	大学院理学院修士（博士前期）課程・博士後期課程第二次入学願書受付【～14日（木）】
	16	土	大学入試センター試験【～17日（日）】【15日（金）休講】
	29	金	転学・転部・転科・編入学・再入学申し出締切
2	4	木	【4日（木）午後～5日（金）原則休講：条件により一部は実施可】 大学院理学院修士（博士前期）課程・博士後期課程第二次入学試験【～5日（金）】
	9	火	修士論文題目提出締切
	10	水	大学院・学部専門科目補講・集中講義期間【～19日（金）】
	12	金	3月学位授与予定者の審査報告関係書類提出締切
	15	月	研究生・聴講生・科目等履修生入学願書受付【～19日（金）】
	19	金	博士学位申請（3月付託）
	19	金	第2学期授業終了
	25	木	本学第2次入学試験（前期日程）【24日（水）試験場設営】
3	4	木	大学院理学院修士（博士前期）課程・博士後期課程入学試験合格者発表【16：30頃】 研究生・聴講生・科目等履修生入学許可通知【16：30頃】
	上～中旬		学科等分属手続き（平成17年度以前入学者のみ対象）
	12	金	本学第2次入学試験（後期日程）【11日（木）試験場設営】
	25	木	学位記授与式
	26	金	学位申請（4月付託）締切
4	1	木	大学院理学院入学式
	5	月	大学院・学部専門科目授業開始
	7	水	学部新入生オリエンテーション及びガイダンス
	8	木	北海道大学入学式